

# 01 新曽地区のまちづくりについて

## 令和5年9月議会で質問した住所整理について 土地区画整理事業地内の保留地について



新曽第一土地区画整理事業は、昭和44年に初めての説明会が開かれ、平成5年には整備の基本方針が提示され、国土交通省の承認を得て整備が進められています。同様に、新曽第二土地区画整理事業も昭和44年に説明会が行われ、昭和61年に「新曽まちづくり推進協議会」が設立されて整備が開始されました。しかし、これらの事業は当初の計画から大幅に遅れている状況であります。土地の所有者も代が変わってきていることから、私細田まさのりは土地区画整理事業について、定期的な検証の必要性を感じ質問を行いました。

令和5年9月の議会での質問では、住居整理の進捗についてお尋ねし、現状や課題、今後の予定について詳しく求めました。市は、住居表示事業などを通じて市街化区域の約84%で住所整理を進めており、まだ新曽地区内の約213haは残っています。課題としては、権利者の理解と協力が必要で事業の進行状況に影響されるため、住所整理施行日の設定が難しいとしています。次に、町界や町名の整理は法務局との調整も求められ、手続きには時間がかかることが指摘されています。今後の予定としては、令和10年度からの取り組みを見込んでおり、新曽中央地区を先行しつつ、新曽第一土地区画整理事業の換地処分に合わせて行う方向です。住所整理に必要な期間は約4～5年と見込まれ、町会割りや名称の決定には地域の声を反映させる必要があると認識しています。また、情勢に応じた対応をしていきます。

次に、一般保留地について質問しました。一般保留地は、土地所有者から提供された土地を売却し事業費用に充てられるものであり、事業収入の確保に重要な役割を果たしています。売却価格については、不動産鑑定士の意見を基に価格が決定され、現在は約6,200㎡の一般保留地のうち2,200㎡の処分が完了しています。残りの3,900㎡については、計画的に処分を進めていく方針です。住所整理が時間を要するので具体的な完了見込みを尋ねたところ、新曽地区は全体で約213haの広範囲に及ぶため、町名変更作業には4～5年程度かかる見込みであると、成功裏に作業を進めるためには、地域のニーズへの配慮も必要である。さらに、保留地の処分が可能かについての答弁もあり、場所の整形性を考慮し、取引可能な状況にあると述べられました。別途、土地区画整理事業の施行者が戸田市であることも確認したところで、私細田まさのりは土地所有者への感謝の意を表明し、この事業は戸田市発展のための戦略のもとに進められていることを改めて再認識して欲しい。また、施行者である市長には計画の実行を怠らない責任を持つよう強く要望しました。



保留地

# 02 屋外イベントについて

## 本市における大きな屋外イベントである 戸田橋花火大会と戸田ふるさと祭りについて



温暖化によって日本の四季が失われつつあり、医師や学者の間で二季への変化が議論されています。令和6年7月29日から8月4日までの一週間に、全国で熱中症による救急搬送患者が1万2272名に達したとの報告があり、これに伴い、各自治体では屋外イベントや神社祭礼の開催時期を見直す動きが増加しています。特に、本市では毎年8月の第一土曜日に戸田橋花火大会、他に8月末には戸田ふるさと祭りが開催されており、これらのイベントへの職員の健康管理と業務への影響が出ているとしっかりと管理はされているのか、職員の休憩所についても忙しい中での利用が難しいとの意見も聞かれています。また、熱中症による体調不良者数や救急搬送者数について過去のデータが示され、今後の対応を一層充実させる必要があると確認しました。これらの屋外イベントに対する今後の取り組みとして、体温を下げる空調機能を持つ衣服の貸与などを提案しました。そして、戸田ふるさと祭りの実行委員長は市長であります。職員や来場者の健康への配慮が怠ることのないよう十分な対応を要望しました。また、環境経済部長や市民生活部長からは、気温上昇に伴う課題に対しての検討をして参りますと、今後の屋外イベントの開催時期、あり方を含め暑さ対策など全体の対応を強化することが要望しました。

# 03 彩湖・道満グリーンパーク内にある駐車場について

## 行楽シーズン時の土日祝日では満車状態となり、 公園周辺では道路が渋滞し近隣住民から苦情の声が出ている。



昭和55年以前は雑草が生い茂った沼地であった彩湖・道満グリーンパークは、現在は市民や近隣市からの来園者が年々増加しています。この場所には、運動場やドッグラン、釣り堀、自然学習センター、公園、遊歩道などの多目的な施設があり、特に春から秋の土日祝日には駐車場がほぼ満車状態の状況であります。また、ウィンドサーフィンやサップなどのアクティビティも見られ、利用者が増加している一方で、駐車場の混雑により危険が生じているとの近隣住民からの声が上がっています。そこで、私細田まさのりが、駐車場の現状と増加に向けた対応策について質問をしました。

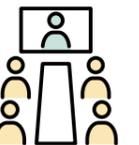
現在、平常時には約1,230台の駐車が可能ですが、繁忙期には臨時駐車場を追加して最大1,610台の利用が可能となります。それにも関わらず、ゴールデンウィークなどの特定の期間では、駐車待ちの車両により周辺道路が渋滞する問題も抱えています。過去10年間の平均駐車台数は年間約37万7千台であり、令和4年度には最大約38万9千台の利用が確認されています。また、彩湖・道満グリーンパークは有料の駐車場を持っていますが、隣接する無料の荒川水循環センター上部公園の駐車場に停め、公園に移動する利用者が存在することを指摘したところ、そのような利用について市は把握していないとの回答がありました。そこで、立体駐車場の設置が提案しましたが河川管理や水流への影響から検討が難しいとのこと。最後に、利用者と周辺住民の改善要望に応えられるように、駐車場の対応策についての調査・研究が改めて求めました。



彩湖・道満グリーンパーク

# 04 駅前行政センターについて

## 令和4年6月議会で質問した 戸田公園駅前行政センターについて



私細田まさのりは令和4年6月議会において、新曽第一・第二の区画整理事業と北戸田駅周辺の整備について質問し、駅前に行政センターを設置することの利便性を提案しました。また、公共施設の再編が必要とされる背景には、新型コロナウイルスの影響や市民生活の変化があると指摘され、公共施設のニーズを捉える必要性がありました。しかし、北戸田駅周辺に行政センター設置の具体的な計画はないとの答弁がありました。さらに、市民ニーズを把握するために公共施設に対するアンケートが行われているか問いに対し、答弁では個別のアンケートは実施されていないものの市民意識調査が行われ、サービスに関するニーズが示されていることが説明されました。特に「行政手続きができる」施設の必要性が高く、市民は多くの点において現状で十分ではないとの意見も示されました。そこで、細田まさのりは再質問で、市内駅前の公共施設について市民の意見を募るアンケートを実施するよう要望し、北戸田駅西口交流広場の整備計画についても言及しました。この整備は市民の期待に応えるもので、国の支援を受けながら進められ、地域の活性化が期待されています。既存の駅前施設が市民のニーズにできていないとの不満の声を挙がっている。より良い公共サービスを提供するためには駅前に行政センターを設置する必要があると強調しました。コンパクトシティと掲げている戸田市に本庁舎へ行かずに手続きなどが済む市内各駅における行政センターを設置し市民の生活の質の向上を図るべきと強く要望しました。



戸田公園駅前行政センター

